

練習中のママも安心



母親が練習している間、保育士と一緒におもちゃで遊ぶ子どもたち=盛岡市みたけ・県営武道館

岩手国体に向けた強化練習が熱を帯びる中、ママ選手、コーチへの子育て支援が進んでいる。県強化委員会(委員長・達増拓也県体協会会長)は、練習の間、無料で子どもを預かる託児サポートを昨夏から実施。利用する選手、コーチからは「安心して練習に打ち込める」と好評だ。

託児サポート好評

県強化委会場に保育士派遣

6月中旬、なぎなたの選手が集まつた盛岡市みたけの県営武道館。控室には、にぎやかな子どもたちの笑い声が響いた。この日は3歳から小学校1年生までの3人が預けられ、母親が練習を終えるまでの約6時間、保育士と楽しく過ごした。今では子どもたち同士も仲良しだ。

「子どもを預ける場所を確保してほしい」。選手からの要望がサポートのきっかけだった。ただでさえ合宿や遠征で家を空けるのに、育児まで家族に負担をかけるのは気が引けると子連れ練習になりがちだが、中断してトイレに連れて行ったりと苦労も多い。

県強化委は盛岡市の認定NPO法人いわて子育てネットと契約を結び、同市郊の練習会場に保育士を派遣するほか、選手が同法人の施設に子どもを預ける2

希望郷
2016
いわて
国体

タイプの支援を用意した。託児費用は県体協の賛助金で賄い、なぎなた・山岳シンクロナイズドスイミングの選手、コーチ7人が利用。4月は生後10ヶ月の乳児から小学生まで延べ27人が預けられた。

釜石市から9歳と2歳の

子どもを連れてくる、なぎなたの佐藤千依選手(37)は、「練習しながら小さな子どもに目配りするのは大変だった。保育士さんが選手と同じ場所でみてくれるので安心感がある」と感謝し、稽古に専念する。

選手への子育て支援は家庭円満にもつながる。夫婦共働きで、2児を預ける強化責任者の細川都也さん(43)=九戸村=は「家族の負担軽減になり、協力や理解を得やすい。夫は『国体まで頑張れ』と快く送り出してくれる」とサポートのありがたみを感じる。